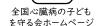
ニュース

心臓病の子どもを守る会 医療講演会

2023年11月12日(日)に、榊原記念ホールにて全国心臓病の子どもを守る会 福井県 支部さま主催の医療講演会が開催されました。小児科の西田医師が「先天性心疾患と共 にAYA世代を生きる」と題して講演を行いました。「心臓病の子どもを守る会は」、全国に 50支部、約3200世帯の会員さまがおられ、心臓病の子どもの保護者の方や、同じ病気を 抱える子ども達に交流の場を提供されています。

全国心臓病の子どもを守る会 福井支部

連絡先:事務局 角田さん メール: momoirohoppe@rcn.ne.jp







病院へのアクセス



JR福井駅より

- ①タクシーで約10分 ②越前鉄道 勝山 行で 「越前新保駅」下車 徒歩3分
- 京福バス 福井駅西口 | 番乗場 「57心臓センター」行バス 終点

「福井心臓血圧センター」 下車 所要時間約25分

福井心臓血圧センター 医療法人

〒910-0833 福井市新保2丁目228番地 TEL (0776) 54-5660(代) FAX (0776) 53-2132 発行所: 福井循環病院 地域医療連携室

最先端の医療を提供し、豊かな人生に貢献する

福井心臓血圧センター福井循環器病院 地域連携広報誌



院長より年頭のご挨拶

令和6年元旦に起きた能登半島地震により亡くなら れた方々のご冥福をお祈りし、ご遺族の皆様にお悔や みを申し上げます。また、被災された皆様に心からお 見舞い申し上げますとともに一日も早い復旧・復興を お祈りいたします。30年前、当時若手の医師として 輪島で2年間ほど勤務したことがあり、今回の地震は 他人事ではなく、心が痛む思いであります。



福井循環器病院 院長 大里 和雄

英国では第2次世界大戦後「ゆりかごから墓場まで」というスローガンのもと 社会保障制度が整備され、その後の日本を含めた各国の社会福祉政策の指針と なってきました。このスローガンは当院の基本方針の一つとなっており、例えば、 乳幼児の難易度の高い心臓外科手術の実施から、超高齢者における経力テーテル 大動脈弁置換術(TAVI)など、多くの年齢層の患者様に治療を提供しております。 また、僧帽弁に対するカテーテル治療(MitraClip)や完全内視鏡による低侵襲手 術(MICS)などの体の負担が少ない低侵襲治療は、患者さまのライフステージに 合わせて実施できるように心掛けております。

今年4月からは、医師の働き方改革が始まります。勤務する各医師の時間外労 働時間の短縮により、医師の健康を担保することで医療の質と安全を確保し、持 続可能な形で医療を提供することを目指しております。地域間の医師の偏在など が顕在化する中で、当院においては各職種における業務移行および分担を推進す ることによって、効率よく最新の循環器医療を提供で<mark>きるよう精</mark>進していきたく 考えます。

少子高齢化の影響によって、地域における働き手は減り、地域における医療・ 介護の負担はどんどん大きくなっていきます。当院においては患者さん一人一人 に寄り添いながら、地域の皆さんにもっと身近に先端医療を提供することができ る病院でありたいと考えております。

先天性疾患との付き合い方

大人になってからの病気との付き合い方

今回は当科が担っている分野の一つである「成人先天性心疾患」についてお話いたします。「生まれつきの心臓病(=先天性心疾患 congenital heart disease)」を持ち18歳を過ぎて成人に達した患者さんを、成人先天性心疾患患者と呼びます。Adult Congenital Heart Disease(ACHD)という略称でも呼ばれ、その患者数の増加から近年極めて重要視されている疾患分野となっています。

先天性心疾患は全出生の約1%に発生し、全国で年間約1万人の発症があると言われています。この中には治療が要らないような軽症例もありますが、手術を要する重症例を含めても、治療技術の目覚ましい進歩により95%の患者さんは成人に達していきます。年々増加するACHDの患者さんですが、2016年の時点で全国で約50万人に達しており、厚労省の2017年のデータによる虚血性心疾患患者数72万人と比較しても、相当な数に達していることが分かります。

遠隔期での合併症

成人に達した患者様にはどのような問題があるでしょうか?先天性心疾患は大きく単純心奇形と複雑心奇形に分けられます。約80%を占める単純心奇形は手術不要なこともありますし、手術により心機能がほぼ健常者レベルまで回復することが期待できる病気です。成人に達するとともに定期受診終了とすることも多いですが、もちろんその後も気になることがあれば受診をお勧めしています。複雑心奇形はその名の通り高度な手術が必要となり、治療後も心機能が100%までは戻らない症例で、継続的に投薬が必要となることもあります。複雑心奇形は下表に示すように、疾患それぞれに注意すべき遠隔期合併症があって、再手術となる可能性もあるので生涯定期受診を続けるべき疾患といえます。

表1:先天性心疾患手術後の遠隔期に注意すべき合併症

成人先天性心疾患(ACHD)とは

遠隔期での合併症

成人期の患者さんはそれぞれ就労もされ、妊娠・出産といった課題も抱えています。 労働環境が適切かどうか、妊娠可能か、また可能であった場合に分娩様式は?といった検討が必要となります。また初期に手術を受けた患者様の多くが40代、50代になられており、肉体的衰えが単に加齢によるものなのか、心疾患の影響なのかを見極めることも重要です。万が一、ACHDの遠隔期合併症に起因する症状があれば、適切な治療により状態を改善することが可能です。

当院のフォロー体制

当院は本県唯一の日本成人先天性心疾患学会「成人先天性心疾患専門医修練連携施設」に認定されております。当院の小児科は、ACHDも併せて診療しておりますが、「小児科だから成人から老年期の一般的なことはわからない!??」とはならないよう、必要に応じて循環器科などと診療連携をさせていただいていますのでご安心いただければと思います。

当院で昔手術をされたが気になることがあるので久しぶりに受診したいという方や、ACHDを抱えて他県から移住されたがどこに受診したらよいかわからないという方は、ぜひ当科までご相談ください。疾患の現在の状態をしっかり評価し、その後の方針を検討させていただきます。

かかりつけ医さまからのご紹介はこちらまで

小児科(小児循環器科)外来 月曜日から土曜日 午前中に診療中!

お問合せは地域医療連携室まで 🛣 0776-54-5761(直通)



小児心臓外科手術の様子



小児科(小児循環器科) 主任部長 西田 公一